

SYLLABUS

シラバス

2012 年度 追補版

LEC 東京リーガルマインド大学大学院
高度専門職研究科会計専門職専攻

LEC GRADUATE SCHOOL OF ACCOUNTANCY

ID: YA12239

年度	配当	区分	科目名	担当教員	総回数	単位数
2012	通年	応用実践	財務会計論研究指導 【2012年度秋入学生対象】	若杉明	30	4

授業の目的

われわれは問題に直面した場合、これを解決するために、種々の方法を用いて解決策を見出さなければならない。財務会計論演習指導においては、このようなプロセスにおける会計的ものの考え方、方法の選択と適用等についてのトレーニングを通じて、各自が財務会計に関するテーマについて論文を作成するための指導を行います。論文指導は、たんなる講義だけでは得られない思考力と創造力を培い、高度の職業会計人の育成に役立ちます。

授業の到達目標

職業会計人は企業会計の実務的専門家として、常に種々の問題解決に取り組まなければなりません。本演習指導においては、会計職業専門家としての適切な判断が行使でき、創造的な指導力を発揮できる人材の養成を目標としています。

履修条件

--

授業計画

回数	授 業 内 容	日 程
1	情報科学としての企業会計の特質について考察する。 会計情報の概念、会計ディスクロージャ・システム、企業会計の社会的役割等、財務会計の社会科学としての基礎的性格について学習し、議論する。	10月1日(月) ⑤19:00-20:30
2	同上	10月8日(月) ⑤19:00-20:30
3	同上	10月15日(月) ⑤19:00-20:30
4	財務会計に関する研究および論文作成の基礎となる諸理論、すなわち情報理論、コミュニケーション理論、システム理論、プラグマティズムの哲学、概念の定義法等について学習し、議論する。	10月22日(月) ⑤19:00-20:30
5	同上	10月29日(月) ⑤19:00-20:30
6	財務会計に関する研究および論文作成にとって必要な各種の方法について学習する。すなわち会計公準論、会計主体論、伝統的な帰納法と演繹法、意思決定の方法、起承転結の論理、問題解決の方法、仮説演繹法、コンテインジェンシー理論等について学び、それらの応用について実践する。	11月5日(月) ⑤19:00-20:30
7	同上	11月12日(月) ⑤19:00-20:30
8	同上	11月19日(月) ⑤19:00-20:30
9	一般に認められた会計基準(GAAP)について、その役割、性格、種類、機能等について学ぶ。さらに国際会計基準(IFRS)とわが国会計基準との関係、すなわちハーモナイゼーション(調和化)、コンヴァージェンス(収束)およびアドプション(全面的導入)について議論する。	11月26日(月) ⑤19:00-20:30
10	同上	12月3日(月) ⑤19:00-20:30
11	金融商品等の会計;金融商品の概念、時価情報開示の必要性、金融商品の貸借対照表価額の算定、ヘッジ会計等について学習し、議論する。	12月10日(月) ⑤19:00-20:30
12	同上	12月17日(月) ⑤19:00-20:30
13	リース取引の会計;リース取引の分類、ファイナンス・リース取引の会計処理および表示、オペレイティング・リース取引の会計処理および表示等について学習し、議論する。	1月7日(月) ⑤19:00-20:30

14	同上	1月14日(月) ⑤19:00-20:30
15	退職給付会計；退職給付に関する諸概念の定義、負債の計上、退職給付費用の処理、貸借対照表および損益計算書の表示等について学習し、議論する。	1月21日(月) ⑤19:00-20:30
16	退職給付会計；退職給付に関する諸概念の定義、負債の計上、退職給付費用の処理、貸借対照表および損益計算書の表示等について学習し、議論する。	
17	税効果会計；税効果会計の目的、税効果に係る会計基準、繰延税金資産および繰延税金負債の計上方法および表示方法等について学習し、議論する。	
18	同上	
19	キャッシュ・フロー計算書の作成；キャッシュ・フロー計算書の財務諸表における位置づけ、作成目的、作成基準、表示方法等について学習し、議論する。	
20	同上	
21	固定資産の減損会計；減損会計の整備の必要性、対象資産、減損損失の認識と測定、減損処理後の会計処理、ファイナンス・リース取引の取扱い、投資不動産の会計処理等について学習し、議論する。	
22	同上	
23	企業結合会計；企業結合会計の整備の必要性、取得と持分の結合の考え方、取得の会計処理、持分の結合の会計処理、共通支配下の取引等の会計処理等について学習し、議論する。	
24	同上	
25	研究開発費の会計；研究開発費の定義、研究開発費を構成する原価要素、研究開発費に係る会計処理、ソフトウェア制作費の会計処理等について学習し、議論する。	
26	同上	
27	連結財務諸表制度；連結財務諸表の目的、連結の範囲、連結貸借対照表の作成、連結損益計算書の作成、連結剰余金計算書の作成等について学習し、議論する。	
28	同上	
29	企業犯罪の概念と経営倫理；企業犯罪と企業の不祥事、企業犯罪の分類、企業の社会的責任（CSR）、経営者と経営倫理等について学習し、議論する。	
30	企業価値と企業評価；企業価値の概念、企業価値と知的財産、企業価値形成における人的資源の役割、企業評価の概念と必要性、企業評価の諸方法について学習し、議論する。	
試験		

使用教科書／評価方法等

教科書	『企業会計の基礎的考え方』若杉明著 LEC会計大学院叢書 第3巻 2009年 会計学関係の専門誌に掲載されている各種の論文。
参考書	『現代財務会計』野村健太郎著 税務経理協会 2008年 『グローバル財務報告 ― その真実と未来への警鐘』 J.J.ベンストン他著、川村義則、石井 明 監訳 中央経済社 2009年
評価方法	期末テストまたはレポート 80%、出席 20%
その他	・本科目は、19:00～20:30 で実施いたします。お間違えのないようご注意ください。 ・授業内容は、進度などに応じて変わることがあります。

ID: YA12230

年度	配当	区分	科目名	担当教員	総回数	単位数
2012	後期	発展	会計制度 I	齋藤淳	15	2

授業の目的

財務会計論でカバーし切れなかった論点について、その背景、実情、将来展望等について、税法、監査とも絡めながら多角的に解説していく。単に講義を聴くだけでなく各自で読み解き、考えていって欲しい。あるべき会計は永遠に完成されることはなく常に流動変化している。「真実はひとつ」などということは、会計の世界では適合するとは限らない。触れていない重要論点については、会計制度 I にて引き続き取り上げる。

授業の到達目標

細切れの単なる知識ではなく会計を巡る広範な世界を体系的にかつ実践的に理解し使いこなせるようになること。

履修条件

簿記、会計の基礎を身につけていたほうが望ましい。

授業計画

回数	授 業 内 容	日 程
1	減損会計基準、設定に関する意見書等の内容を検討し、減損会計導入の経緯、仕組みと考え方、公正評価額、時価とは、将来CF、割引計算、割引率、グルーピング、表示等について理解する。	10月2日(火) ⑤19:30-21:00
2	土地再評価法の内容と減損処理との違い、減損会計導入前の導入延期の動きを参照しつつ、会計と政治の絡みについても考えてみる。	10月9日(火) ⑤19:30-21:00
3	計算設例により、減損の判定と計算の過程、会計処理、税務上の取扱い、実際の決算書、注記の実例を検討。減損会計の処理と監査上の留意事項について理解する。	10月16日(火) ⑤19:30-21:00
4	減損会計の内容が含まれている公認会計士試験の問題を検討、共用資産、のれんの会計処理について理解を図り、減損会計の意義と問題点について改めて検討する。	10月23日(火) ⑤19:30-21:00
5	損益会計と税務会計の関係、税効果会計導入の経緯、当時の経済的、会計的背景、その仕組みと考え方を設例に基づき理解する。税効果会計基準、実務指針等の内容を検討。	10月30日(火) ⑤19:30-21:00
6	税効果会計基準、実務指針等の内容を参照しつつ、具体的な会計処理・仕訳、実際の決算書の表示実例を参考にしつつ理解を図る。日本における現状と問題点を検討。住民税の説明を行ったうえで、実効税率の考え方と実務における算出の仕方を理解する。	11月6日(火) ⑤19:30-21:00
7	企業の実例を参照しつつ、税効果会計が与えた影響とその背景に触れた上で、繰延税金資産の資産性、将来予測判定、回収可能性について理解し、税効果会計の意義と問題点、監査上の留意点を総括する。	11月13日(火) ⑤19:30-21:00
8	資産除去債務の意義、導入の背景、計算と処理につき設例も使いながら理解する。減損会計基準との関係、原子力発電所の会計処理についても言及する。	11月20日(火) ⑤19:30-21:00
9	資産除去債務会計の問題点について検討する。借地権の意義分類等について理解する。	11月27日(火) ⑤19:30-21:00
10	金融資産、金融負債の範囲とその発生・消滅の認識評価における基本的考え方、時価、有価証券の評価における種々のポイントを理解する。更に金融危機下における欧米及び日本における動向、問題点に論及。時価会計、更には取得原価主義会計について改めて考えてみる。	12月4日(火) ⑤19:30-21:00
11	同その2	12月11日(火) ⑤19:30-21:00
12	貸倒見積高の算定における債権の区分とそれぞれにおける算定方法、会計処理の仕方、キャッシュフロー見積法、財務内容評価法のそれぞれにおける留意点、問題点、更には税法上の取扱いとの関係等について検討理解する。	12月18日(火) ⑤19:30-21:00
13	無形固定資産の意義、分類、前払費用・繰延資産との違い、特許権等の工業所有権、知財	1月8日(火) ⑤19:30-21:00

	評価と意義、種々の評価方法とその問題点、営業権の処理と開示について理解する。	
14	リース取引の分類、意義、要件について理解したうえで会計処理、税務上の取扱を比較しつつ検討理解を深める。	1月15日(火) ⑤19:30-21:00
15	会計上の変更および誤謬の訂正に関する会計について理解する。	1月22日(火) ⑤19:30-21:00
試験	期末試験を実施する。	1月29日(火) ⑤19:30-21:00

使用教科書／評価方法等

教科書	『会計監査六法 平成24年版』 日本公認会計士協会編 中央経済社
参考書	授業中に適宜紹介する。
評価方法	期末テスト50%、授業中の発言等20%、出席30%
その他	

ID: YA12525

年度	配当	区分	科目名	担当教員	総回数	単位数
2012	後期	発展	監査手続論	相川聡志	15	2

授業の目的

1年間を通して監査を行うにあたって、それぞれの段階の監査手続を時系列を追うように解説する。各段階での監査の目的を理解し、それに応じた監査手続の設計及び実施ができる能力を養うことを目的とする。

授業の到達目標

実務における一連の監査手続を14回15回で実践シミュレーションし、実務に出られる即戦力の習得を到達目標とする。

履修条件

「監査論」の既履修もしくは同程度の理解を前提とする。

授業計画

回数	授 業 内 容	日 程
1	監査全体像 監査を行う目的（最終的なゴール）について確認を行う。財務諸表監査及び内部統制監査について、監査全体から見た関係を学習する。1年間を通じた監査の流れを学習する。	10月2日（火） ⑤19:30-21:00
2	リスクアプローチ総論 現代における監査の根幹を成すリスクアプローチについて学習する。	10月9日（火） ⑤19:30-21:00
3	監査契約、監査の基本的な方針の策定（上） そもそも監査契約自体を締結してよいのかについての検討を行う。 現代における監査の根幹を成す重要性の基準値について学習する。	10月16日（火） ⑤19:30-21:00
4	監査の基本的な方針の策定（下） 連結財務諸表に対するグループ監査について学習する。	10月23日（火） ⑤19:30-21:00
5	財務諸表監査全体レベル及びアサーションレベルのリスク評価 それぞれのレベルにおいて発生しうるリスクについて把握を行う。	10月30日（火） ⑤19:30-21:00
6	リスクに対応したコントロールの評価 5回で把握したリスクに対して、どのようなコントロールが設計されているかの把握を行う。また、そのコントロールの有効性についての評価を行う。サンプリングについても学習する。	11月6日（火） ⑤19:30-21:00
7	ITに係る内部統制 ITを利用した内部統制の評価について学習する。	11月13日（火） ⑤19:30-21:00
8	業務プロセスに係る内部統制評価 リスク評価・コントロール評価が終わった段階での結合リスク評価を行う。結合リスク評価に応じた実証手続についての概括的な設計を行う。	11月20日（火） ⑤19:30-21:00
9	実証手続1 8回で行った結合リスク評価に応じた実証手続の概括的設計から必要な詳細な手続を導く。いわゆる実査・確認・立会等の監査手続の総論を行う。	11月27日（火） ⑤19:30-21:00
10	実証手続2 資産（現預金、売掛金、棚卸資産、固定資産、等）	12月4日（火） ⑤19:30-21:00
11	実証手続3 負債資本（買掛金、借入金、引当金、純資産、等）	12月11日（火） ⑤19:30-21:00
12	実証手続4 損益科目、連結財務諸表	1月8日（火） ⑤19:30-21:00
13	監査意見の形成 監査意見は監査人にとっての最終的な結論である。結論を導くに至る過程を学習する。また、継続企業の前提についても学習する。	1月15日（火） ⑤19:30-21:00

14	監査手続シュミレーション（上） 1～8 回までの講義を踏まえ、一連の監査手続をディスカッションをしながらクラス全員で行う。	1月22日（火） ⑤19:30-21:00
15	監査手続シュミレーション（下） 9～13 回までの講義を踏まえ、一連の監査手続をディスカッションをしながらクラス全員で行う。	1月29日（火） ⑤19:30-21:00
試験	なし	

使用教科書／評価方法等

教科書	講義において配布する資料、及び 『新起草方針に基づく 監査実務指針集』日本公認会計士協会出版局 2012 年 2 月 20 日刊行
参考書	適宜案内を行う。
評価方法	出席 40%、授業内での発言及び参加姿勢 30%、14 回及び 15 回の監査手続シュミレーションでの発言及び参加姿勢 30%
その他	授業内での発言は正誤によって評価はしない。あくまでも授業に対する参加姿勢と理解しようとする姿勢を評価の対象とする。 14 回、15 回は全員で輪になってのディスカッション形式とする。1 回～13 回で学習した内容をシュミレーションで大いに発揮して欲しい。

ID: YA12451

年度	配当	区分	科目名	担当教員	総回数	単位数
2012	後期	発展	実用英語演習応用	藤澤慶巳	15	2

授業の目的

言語習得に関する理論と実際を考察することによって、特に第二言語の習得に関する理解を深める。中でも、外国語としての英語の習得にかかわる諸問題を考え、ビジネス英語に求められる専門的かつ実践的素養を身に付ける。最終的には TOEIC のスコアアップはもちろん、実践的なコミュニケーション力を養います。

授業の到達目標

英語によるコミュニケーション能力を幅広く評価する世界共通のテスト TOEIC で C ランク (470~730 点) 後半を目指す。

履修条件

--

授業計画

回数	授 業 内 容	日 程
1	日本人の弱点攻略 日本語と英語の音声的な違い母音と子音の比率のうち特に母音の暗さに焦点を当て弱点を攻略しています。 TOEIC 演習	10月3日(水) ⑤19:30-21:00
2	シチュエーションに応じた発音表現方法、発音を学ぶ 日常生活の中ネイティブが使う流暢な英語を検証。 TOEIC 演習	10月10日(水) ⑤19:30-21:00
3	Practicum (実践演習)	10月17日(水) ⑤19:30-21:00
4	シチュエーションに応じた発音表現方法、発音を学ぶ プレゼンテーション等、ネイティブが使う英語表現を検証。 TOEIC 演習	10月31日(水) ⑤19:30-21:00
5	Practicum (実践演習)	11月7日(水) ⑤19:30-21:00
6	シチュエーションに応じた発音表現方法、発音を学ぶ TOEIC 演習	11月14日(水) ⑤19:30-21:00
7	シチュエーションに応じた発音表現方法、発音を学ぶ TOEIC 演習	11月21日(水) ⑤19:30-21:00
8	Practicum (実践演習)	11月28日(水) ⑤19:30-21:00
9	シチュエーションに応じた発音表現方法、発音を学ぶ TOEIC 演習	12月5日(水) ⑤19:30-21:00
10	シチュエーションに応じた発音表現方法、発音を学ぶ TOEIC 演習	12月12日(水) ⑤19:30-21:00
11	TOEIC 模試 Listening	12月19日(水) ⑤19:30-21:00
12	TOEIC 模試 Reading	1月9日(水) ⑤19:30-21:00
13	シチュエーションに応じた発音表現方法、発音を学ぶ TOEIC 演習	1月16日(水) ⑤19:30-21:00
14	シチュエーションに応じた発音表現方法、発音を学ぶ TOEIC 演習	1月23日(水) ⑤19:30-21:00
15	まとめ	1月30日(水) ⑤19:30-21:00

試験		
----	--	--

使用教科書／評価方法等

教科書	* 『スコアが劇的にアップする TOEIC テスト弱点克服トレーニング』藤澤慶已著 あさ出版 * 各回配布レジメ
参考書	
評価方法	期末課題 50%、出席 30% 平常点 20%
その他	

ID: YA12453

年度	配当	区分	科目名	担当教員	総回数	単位数
2012	後期	応用実践	専門英語応用	藤澤慶巳	15	2

授業の目的

英語能力を伸ばすための壁として、実用英語と学校英語の表現方法の違いを理解するのが大きなポイントとなります。この講座では論文を含む様々な分野の英語英文の読解に特化し、それに必要となる語彙、重要表現を学習していきます。

授業の到達目標

英語によるコミュニケーション能力を幅広く評価する世界共通のテスト TOEIC で B ランク (730~860 点) 後半を目指す。

履修条件

--

授業計画

回数	授 業 内 容	日 程
1	Words & Expressions I TOEIC 演習	10月4日(木) ⑤19:30-21:00
2	Article Reading I TOEIC 演習	10月11日(木) ⑤19:30-21:00
3	Practicum (論文読解演習)	10月18日(木) ⑤19:30-21:00
4	Essay Reading I TOEIC 演習	11月1日(木) ⑤19:30-21:00
5	Short Thesis Reading I TOEIC 演習	11月8日(木) ⑤19:30-21:00
6	Words & Expressions II TOEIC 演習	11月15日(木) ⑤19:30-21:00
7	Article Reading II TOEIC 演習	11月22日(木) ⑤19:30-21:00
8	Practicum (論文読解演習)	11月29日(木) ⑤19:30-21:00
9	Essay Reading II TOEIC 演習	12月6日(木) ⑤19:30-21:00
10	総合演習 Words & Expressions	12月13日(木) ⑤19:30-21:00
11	TOEIC 模試 Listening	12月20日(木) ⑤19:30-21:00
12	TOEIC 模試 Reading	1月10日(木) ⑤19:30-21:00
13	Short Thesis Reading II TOEIC 演習	1月17日(木) ⑤19:30-21:00
14	Practicum (論文読解演習)	1月24日(木) ⑤19:30-21:00
15	まとめ	1月31日(木) ⑤19:30-21:00
試験		

使用教科書／評価方法等

教科書	各回配布レジメ
-----	---------

	『新TOEIC テストリーディング 重要フレーズ&問題集』藤澤慶己著 DHC 出版
参考書	
評価方法	期末課題 50%、出席 30% 平常点 20%
その他	

ID: YA12626

年度	配当	区分	科目名	担当教員	総回数	単位数
2012	後期	発展	企業法Ⅱ	平田和夫	15	2

授業の目的

企業法Ⅰに引き続き、商法総則・商行為、金融商品取引法及び民法等の基礎知識の習得を目的とする。授業では、概説書をベースとして、適宜判例集を参照することにより、抽象的な概念の把握にとどまらず、具体的な事案についても理解を深めることができるようにする。併せて、会社法制及び民法（債権関係）の改正の最新の動向にも触れる。本講義は、理論と実務の融合を目指すものであるが、更なる発展的な学習の契機ともなり得るものである。

授業の到達目標

法律系専門職に携わる以上、商法総則・商行為、金融商品取引法及び民法等の基礎的な理解は必須といってよい。今や何らの付加価値もない専門職が生き残ることはできない。本講義で得た知識を武器として、質の高い会計専門職業人を目指してほしい。

履修条件

なし。

授業計画

回数	授 業 内 容	日 程
1	商法総則 商法の意義につき企業法説等を紹介し、商法の法源・適用範囲に触れた上、商人資格、営業概念、商号、商業帳簿、商業使用人、商業登記、事業譲渡等の基本的な概念を理解する。	10月5日(金) ⑤19:30-21:00
2	商行為その1 商行為概念の基礎を理解した上、商行為の代理、商事法定利率、商事消滅時効、多数当事者間の債務の連帯、商人間の留置権のほか、商事売買、運送営業、倉庫営業、匿名組合等の基本を学ぶ。	10月12日(金) ⑤19:30-21:00
3	商行為その2 同上	10月19日(金) ⑤19:30-21:00
4	保険法その1 損害保険契約、生命保険契約及び傷害疾病定額保険契約について、判例を踏まえつつ、基礎知識を習得する。	10月26日(金) ⑤19:30-21:00
5	保険法その2、信託法 同上。また、信託法の基礎知識を習得する。	11月2日(金) ⑤19:30-21:00
6	手形法・小切手法 現在においても、手形・小切手は、企業実務・金融実務において重要な地位を占める。判例を踏まえつつ、基礎知識を習得する。	11月9日(金) ⑤19:30-21:00
7	金融商品取引法1 開示制度の趣旨を踏まえつつ、発行開示、継続開示及び内部統制報告について、その手続の概要を理解する。発行開示等の規制に違反した場合の民事責任について、責任を負う主体、責任の性質・内容、証明責任の分配等につき、近時の主要な判例に触れつつ理解する。	11月16日(金) ⑤19:30-21:00
8	金融商品取引法2 大量保有報告及び公開買付けについて学ぶ。公開買付けについては、その趣旨、適用範囲、手続等の基本を押さえつつ、近時の主要な判例に触れ、併せてMBOの概要を理解する。	11月23日(金) ⑤19:30-21:00
9	民法(総則) 民法の基本原則を踏まえ、権利能力及び行為能力、法人制度の概要、物の意義及び分類のほか、民法総則で最も重要な法律行為及び時効について主要な判例に触れつつ理解する。	11月30日(金) ⑤19:30-21:00
10	民法(物権) 物権法定主義、物権的請求権及び対抗要件等の基本を押さえた上、占有権、所有権のほか、各種用益物権及び担保物権の基礎を理解し、とりわけ抵当権については主要な判例に触れつつ学ぶ。	12月7日(金) ⑤19:30-21:00

11	民法（債権総則） 抽象的で難解な分野であるが、債務不履行責任、債権者代位権及び詐害行為取消権、多数当事者の債権及び債務、債権譲渡・契約上の地位の移転、債権の消滅について、その基本を理解する。	12月14日（金） ⑤19:30-21:00
12	民法（債権各則） 同時履行の抗弁権、危険負担、契約の解除といった契約総則を概観した上、売買を筆頭に、贈与・交換、消費貸借・賃貸借、請負・委任、寄託、組合等の各契約形態の基本を理解する。	12月21日（金） ⑤19:30-21:00
13	民法（親族・相続） 企業法務においても、とりわけ相続法は重要である。相続人、相続分、遺産分割、相続の承認及び放棄、遺言及び遺留分等の基本を理解する。	1月11日（金） ⑤19:30-21:00
14	会社法制の見直し 法制審議会会社法制部会では、企業統治の在り方及び親子会社に関する規律を中心に議論が行われている。議論の内容及び経過等について、その概要を紹介する。	1月18日（金） ⑤19:30-21:00
15	民法（債権関係）の改正 民法制定後110年余りを経て、法制審議会民法（債権関係）部会では、債権法に関する大規模な改正作業が進行している。議論の内容及び経過等について、その概要を紹介する。	1月25日（金） ⑤19:30-21:00
試験	期末テスト	2月1日（金） ⑤19:30-21:00

使用教科書／評価方法等

教科書	江頭憲治郎『商取引法』（弘文堂、第6版、2010） 山下友信＝神田秀樹編『金融商品取引法概説』（有斐閣、2010） 大村敦志『民法のみかた：『基本民法』サブノート』（有斐閣、2010） 山下友信＝神田秀樹編『商法判例集』（有斐閣、第5版、2012） 『有斐閣判例六法平成24年版』（有斐閣、2011）（企業法Ⅰ使用のもの）
参考書	適宜指定する。
評価方法	授業への寄与度40%、期末テスト60%
その他	なし。

ID: YA12332

年度	配当	区分	科目名	担当教員	総回数	単位数
2012	後期	応用実践	管理会計事例研究	林總	15	2

授業の目的

現代の管理会計は、理論だけでなく、IT(情報技術)、そしてビジネスを知らないと理解できません。特に重要なのはビジネスそのものの理解です。本講では、システムを通して、ビジネスがどのように行われているか。また、管理会計とITはどのようにかかわっているのかについて学んでいきます。

授業の到達目標

単なる知識にとどまることなく、管理会計を仕事に生かせるスキルを養成する。

履修条件

管理会計か原価計算を履修していること

授業計画

回数	授 業 内 容	日 程
1	講義の進め方、管理会計の意義と体系 管理会計がなぜ必要とされるか。管理会計の体系を俯瞰する (講義の進め方、受講の前提の説明、成績評価基準、自己紹介)	10月6日(土) ④15:10-16:40
2	会社の仕組み 管理会計の理解には会社の活動の知識が不可欠である。そこで、企業統治、会社組織(事業部、部門)、ビジネスプロセス(受注、生産、販売、在庫、管理)、情報システムを俯瞰する。特に、生産管理について理解を深める。管理会計との結びつきを学ぶ。	10月13日(土) ④15:10-16:40
3	工場の仕組み(製造プロセス) どのように生産活動がなされるのか、具体的な事例をとりあげる。さらに、原価計算と在庫会計との位置づけを検討する。 なぜ原価計算をするのか理解する	10月20日(土) ④15:10-16:40
4	営業の仕組み どのように営業活動がなされるのか。具体的な事例をとりあげる。製造部門との関係はどのようにになっているのか	10月27日(土) ④15:10-16:40
5	ERP パッケージの構造	11月3日(土) ④15:10-16:40
6	ERP パッケージ導入に際しての留意点	11月10日(土) ④15:10-16:40
7	一般会計システムの構造・販売管理システムの構造	11月17日(土) ④15:10-16:40
8	生産管理システムの構造	11月24日(土) ④15:10-16:40
9	在庫管理システムの構造	12月1日(土) ④15:10-16:40
10	予算システムの構造	12月8日(土) ④15:10-16:40
11	伝統的原価計算とオブジェクト指向による原価計算 経営資源(リソースコスト)の(理論と事例) 経費、作業時間、機械時間等原単位原価の収集方法と原価計算とどのように連動させるかを学ぶ。	12月15日(土) ④15:10-16:40
12	プロセス・アクティビティ(理論と事例) プロセス、アクティビティの定義、アクティビティコストの計算方法、アクティビティの管理の仕方を具体的に学ぶ。	12月22日(土) ④15:10-16:40
13	コストオブジェクト(理論と事例)	1月12日(土) ④15:10-16:40

	コストオブジェクトの定義の仕方、アクティビティとの関係、さまざまな業種におけるコストオブジェクトコストの計算と分析の仕方を学ぶ。	
14	管理会計システムの構造。実例による解説 製造業	1月19日(土) ④15:10-16:40
15	管理会計システムの構造。実例による解説 小売業	1月26日(土) ④15:10-16:40
試験		

使用教科書/評価方法等

教科書	『美容院と1000円カットでは、どちらが儲かるか』林總著 ダイアモンド社 2008年 オリジナルレジュメ
参考書	レジュメを配布します
評価方法	出席30%、授業での発表40%、レポート30%
その他	

ID: YA12338

年度	配当	区分	科目名	担当教員	総回数	単位数
2012	通年	応用実践	管理会計論研究指導 【2012年度秋入学生対象】	山本宣明 以下、研究指導 委員会	30	4

授業の目的

2年間で修士論文を書き上げること。

授業の到達目標

1年目に当たる本授業では序論の完成が必須となる。加えて、先行研究の取り纏めに一定の目途をつけることが望ましい。

履修条件

国税庁に提出を予定するものはテーマが原価計算に絞られることを承知して下さい。特にその予定の無い方は修士論文作成の厳しさを十分に認識した上で履修すること。生半可な姿勢では修士論文は完成しません。

授業計画

回数	授 業 内 容	日 程
1	管理会計に関する論文の輪読・議論。以下、同じ。	10月13日(土) 連5限-6限
2		10月13日(土) 連5限-6限
3		10月27日(土) 連5限-6限
4		10月27日(土) 連5限-6限
5		11月10日(土) 連5限-6限
6		11月10日(土) 連5限-6限
7		11月24日(土) 連5限-6限
8		11月24日(土) 連5限-6限
9	仮テーマの決定	12月8日(土) 連5限-6限
10		12月8日(土) 連5限-6限
11		12月22日(土) 連5限-6限
12		12月22日(土) 連5限-6限
13		1月19日(土) 連5限-6限
14		1月19日(土) 連5限-6限
15	序論ドラフトの提出	2月2日(土) ⑤16:50-18:20
16		
17		
18		
19		

20		
21		
22		
23		
24		
25	序論の完成	
26		
27		
28		
29		
30		
試験		

使用教科書／評価方法等

教科書	特に無し
参考書	特に無し
評価方法	授業への出席と貢献で40%、序論の完成・合格で60%。
その他	

ID: YA12615b

年度	配当	区分	科目名	担当教員	総回数	単位数
2012	後期	基本	租税法	小山登	15	2

授業の目的

将来、みなさんが会計専門職業人として活躍される際、租税法に対する論理的思考が必須となります。特に租税法では、税実務上前例なき案件に直面することも多々あります。この案件を解決し結論を導出するには、高度の思考力、判断力、実践力が肝要とされるのです。租税法の授業を通じ、これらの能力を十分に養成し、経済社会の発展に貢献できる“人財”を育成することを目的としています。

授業の到達目標

租税法に限らず、会計実践上さまざまな案件に直面した際、自らの能力でその案件を解決し、結論を導き出さなければなりません。租税法の授業を通じて、この能力を養成し実社会で通用する人材を育成していきたいと考えています。

履修条件

受講生のみなさんが、事前に分担した項目につきまとめたレポートを発表し、教員がコメントする形で授業を進めていきます。みなさんの積極的な授業参加を希望します。

授業計画

回数	授業内容	日程
1	「租税の意義・租税法の意義と特質」 これより研究対象とする租税法の意義と特質、さらに租税の種類と分類等の概要の検討を行います。	10月7日(日) ①9:30-11:00
2	「わが国における租税制度の発達 - 戦後における発達について -、租税法の基本原則」 わが国の戦後における租税制度の発達について、シャープ勧告を中心に検討を行います。さらにわが国における将来の租税制度の展望を考察します。	10月14日(日) ①9:30-11:00
3	「租税法の法源と効力」 租税法の法源の内容を理解し、その効力について研究していきます。特に税実務上使用されている税務通達の意義と位置付けについても検討を行います。	10月28日(日) ①9:30-11:00
4	「租税法の解釈と適用 (1)」 租税法解釈の基盤とされている実質課税の原則について研究します。特に法実質主義と経済的実質主義について検討を行います。	11月4日(日) ①9:30-11:00
5	「租税法の解釈と適用 (2)」 租税法と私法との関連性について研究します。特に私法からの借用概念について判例等を通じて検討を行います。さらに解釈論の体系に文理解釈と目的論的解釈があり、これら解釈の考察を行います。	11月11日(日) ①9:30-11:00
6	「租税実体法の意義・課税要件総論」 租税実体法の意義を検討し、納税義務の成立要件とされる課税要件について考察を行います。特に各租税に共通の課税要件である納税義務者、課税物件、課税物件の帰属、課税標準(課税ベース)、税率について検討します。	11月18日(日) ①9:30-11:00
7	「課税要件各論・所得課税 - 所得税 -」 個人の所得に対する重要な租税である所得税について検討を行います。所得税の所得の意義、類型、課税単位さらに所得税制度の基本的仕組みについて具体的事例を使い考察をしていきます。	11月25日(日) ①9:30-11:00
8	「所得課税 - 法人税 - (1)」 法人の所得に対する重要な租税である法人税について検討を行います。特に法人税の課税根拠について法人擬制説と法人実在説をとりあげ考察を行います。	12月2日(日) ①9:30-11:00
9	「所得課税 - 法人税 - (2)」 前回の続きとして法人の納税義務者の問題をとりあげ検討を行います。さらにわが国の二重課税調整措置に関して具体例をあげ考察します。	12月9日(日) ①9:30-11:00
10	「法人税法第22条を巡る問題点」 法人税法第22条に規定のある法人の所得金額の計算システムについて検討します。特に	12月16日(日) ①9:30-11:00

	益金概念を構成する資産の無償譲渡について企業会計との相違点を考察します。この結果、法人税法上無償取引の益金構成要因を研究します。	
11	「法人税法第 22 条を巡る問題点」 法人税法第 22 条に規定のある法人の所得金額の計算システムについて検討します。特に益金概念を構成する資産の無償譲渡について企業会計との相違点を考察します。この結果、法人税法上無償取引の益金構成要因を研究します。	12月23日(日) ①9:30-11:00
12	「同族会社と所得課税」 同族会社の行為、または計算の否認規定について、判例等の事例に基づき、規定の趣旨、目的、さらに問題点を考察します。また、この否認規定の過去から現在に至る裁判所の見解に関する変遷の検討を行います。	1月13日(日) ①9:30-11:00
13	「多様な事業体・国際取引と所得課税 (1)」 現在多様な事業体が存在し、この事業体に関する課税問題が租税法上の重要な課題とされています。そこで今回は多様な事業体を取りあげ課税問題を検討します。	1月20日(日) ①9:30-11:00
14	「国際取引と所得課税 (2)」 今回、国際的経済活動に対する課税を研究します。この研究は国際租税法の研究であり、今日重要な課税問題の研究分野となっています。特に、国際的三重課税問題、移転価格税制の問題、過少資本税制の問題、タックス・ヘイヴン対策税制の問題等を取りあげ検討を行います。	1月27日(日) ①9:30-11:00
15	「まとめ」 1回～14回の問題の総括を行いたいと考えています。また、重要な課税事例を取りあげ、みなさんと共に討論を行いたいと思います。(各回、主要判例があれば検討したいと考えています。)	2月3日(日) ①9:30-11:00
試験	課題レポート提出	

使用教科書／評価方法等

教科書	『租税法』金子宏著 弘文堂 (開講時に最新版(第17版)が出版されていればこれを使用) 『確認租税法用語 250』増田英敏・加瀬昇一編著 成文堂 (2008年12月)
参考書	『ケースブック租税法 第3版』金子宏 他3名編著 弘文堂 (2011年3月)
評価方法	期末課題レポート70%、出席および発表30%
その他	みなさんの授業への出席が、授業の成果を有効に高める原動力となります。みなさんの全15回出席を希望します。

ID: YA12229

年度	配当	区分	科目名	担当教員	総回数	単位数
2012	後期	発展	会計制度Ⅱ	齋藤淳	15	2

授業の目的

会計制度Ⅰでカバーし切れなかった論点について、その背景、実情、将来展望等について、税法、監査とも絡めながら多角的に解説していく。単に講義を聴くだけでなく各自で読み解き、考えていって欲しい。あるべき会計は永遠に完成されることはなく常に流動変化している。「真実はひとつ」などということは、会計の世界では適合するとは限らない。

授業の到達目標

細切れの単なる知識ではなく会計を巡る広範な世界を体系的にかつ実践的に理解し実務的にも使いこなせるようになること。

履修条件

簿記、会計の基礎を身につけていたほうが望ましい。

授業計画

回数	授 業 内 容	日 程
1	コンバージェンスの国際的動向と日本の対応を概説。IFRSの日本における導入の状況、そのパターン、会社法や税法に与える影響と問題点等について解説。IFRS基準の内容についての特徴・問題点についても解説。	10月7日(日) ⑤16:50-18:20
2	同その2	10月14日(日) ⑤16:50-18:20
3	貸借対照表の純資産の意義、内容、損益計算書・株主資本等変動計算書と絡めた財務諸表の体系を、改正前の決算書体系と比較して理解する。自己株式の意義、取扱い、表示の変遷、取得・保有・処分・消却における処理の仕方につき設例も参照しつつ解説。企業再編における自己株式交付とデッド・エクイティ・スワップについても解説。	10月21日(日) ⑤16:50-18:20
4	同その2	10月28日(日) ⑤16:50-18:20
5	連結会計の意義、仕組、基本的会計処理の概要を理解する。	11月4日(日) ⑤16:50-18:20
6	連結の範囲、連結財務諸表の表示等について理解する。	11月11日(日) ⑤16:50-18:20
7	企業結合会計について理解する。	11月18日(日) ⑤16:50-18:20
8	特別講義(内容未定)	11月25日(日) ⑤16:50-18:20
9	特別講義(内容未定)	12月2日(日) ⑤16:50-18:20
10	公益法人会計の意義、財務諸表体系、とその仕組み、参考実例を参照に、各種財務諸表から税額計算までの一連の流れを収支計算を意識しながら理解する。	12月9日(日) ⑤16:50-18:20
11	公益法人の制度改革についての理解。NPOや学校法人、社会福祉法人等の様々な会計についてその概略を理解する。	12月16日(日) ⑤16:50-18:20
12	学校法人会計の意義、財務諸表体系、とその仕組みを理解する。	12月23日(日) ⑤16:50-18:20
13	社会福祉法人会計・独立行政法人会計の意義、財務諸表体系、とその仕組みを理解する。	1月13日(日) ⑤16:50-18:20
14	公会計の目的、実態、特長と改革、健全化の要点、地方公共団体の監査、決算書の仕組と内容につき実例を参照しつつ理解する。	1月20日(日) ⑤16:50-18:20
15	同その2	1月27日(日) ⑤16:50-18:20

試験	レポートによる	
----	---------	--

使用教科書／評価方法等

教科書	『会計監査六法 平成24年版』 日本公認会計士協会編 中央経済社
参考書	授業中に適宜紹介する。
評価方法	期末レポート50%、授業中の発言等20%、出席30%
その他	

ID: YA12636d

年度	配当	区分	科目名	担当教員	総回数	単位数
2012	通年	応用実践	租税法研究指導【2012年度秋入学生対象】	慶松勝太郎、 以下、研究指導 委員会	30	4

授業の目的

本授業は、修士論文の作成を目的としています。マイルストーンに沿って、1年目終了時（2013年9月）までに序論の完成・合格を絶対的到達点とします。この至上命題のもと、前半（2012年度後期）は論文作成のために必須の知識とスキルの教授を中心に行う一方、各自で自らの論文テーマについての構想を練ってもらいます。その成果を後期最終盤の仮テーマ発表会、春期休暇期間末（予定）の序論ドラフト発表会にて発表してもらいます。この結果を踏まえて、後半（2013年度前期）は序論の執筆に集中し、前期末までの合格を目指します。また、このプロセスと平行し、日本語文章力のボトムアップを目的として、アカデミック・ライティング・トレーニングを行います。原則として、授業内で課題を出し、メールにて提出してもらうという方式を予定しています。

授業の到達目標

序論の完成・合格

履修条件

授業計画

回数	授 業 内 容	日 程
1	【修士論文の書き方・講義】	10月7日(日) ⑤16:50-18:20
2	【修士論文の書き方・輪読会1】	10月14日(日) ⑤16:50-18:20
3	【修士論文の書き方・輪読会2】	10月21日(日) ⑤16:50-18:20
4	【修士論文の書き方・輪読会3】	10月28日(日) ⑤16:50-18:20
5	【文献検索法】図書館やインターネットによる文献検索の方法。	11月4日(日) ⑤16:50-18:20
6	【税法論文テーマ設定のために・1】	11月11日(日) ⑤16:50-18:20
7	【論文の基本構造と文献読解の方法1】	11月18日(日) ⑤16:50-18:20
8	【論文の基本構造と文献読解の方法2】	11月25日(日) ⑤16:50-18:20
9	【論文の基本構造と文献読解の方法3】	12月2日(日) ⑤16:50-18:20
10	【論文の基本構造と文献読解の方法4】	12月9日(日) ⑤16:50-18:20
11	【税法論文テーマ設定のために・2】	12月16日(日) ⑤16:50-18:20
12	【仮テーマ発表会・1】仮テーマの発表とディスカッション。	12月23日(日) ⑤16:50-18:20
13	【仮テーマ発表会・2】仮テーマの発表とディスカッション。	1月13日(日) ⑤16:50-18:20
14	【仮テーマ発表会・3】仮テーマの発表とディスカッション。	1月20日(日) ⑤16:50-18:20
15	【まとめ】	1月27日(日) ⑤16:50-18:20
16	後半は序論ドラフト（レジュメ）発表会での成果を踏まえて、序論の完成・合格に全力を挙げます。この目標達成のために、テーマや進度に応じてグループ分けし、このグループ	

	毎に教員への進捗報告、教員からのサジェスション、ディスカッションを行います。(3週に1度程度を予定。それ以外の週は各自序論執筆作業。)	
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30	ここまで序論が完成し、合格していることが絶対的な目標です。この目標の達成のために全てがあると考えてください。過去の実績に照らして、1年目終了時までに序論合格を果たせないと、修士論文の完成率はゼロに限りなく近づくことから、ここまで序論合格を果たせなかった場合は、自動的に半期下のクラスに合流して頂くことになります。	
試験		

使用教科書／評価方法等

教科書	
参考書	「修士論文の書き方」慶松勝太郎著『LEC 会計大学院紀要』第7号 2010年 (LEC 会計大学院のHP からダウンロードできます。) 『社会科学系のための「優秀論文」作成術』川崎剛著 勁草書房 2010年 『論文・レポートの文章作法』古郡延治著 有斐閣 1992年
評価方法	序論の完成・合格で40%、出席と貢献度で60% (つまり全て出席することが前提。やむをえない事情で欠席する場合は必ず事務局を通じて連絡し、無断欠席とならないようにすること。また、クラス全体への何らかの貢献を心がけてください。それらを総合的に加味して成績を評価します。)
その他	授業の内容は進度などに応じて変わることがあります。

ID: YA12416b

年度	配当	区分	科目名	担当教員	総回数	単位数
2012	後期	基本	IT リテラシー	横井隆志	15	2

授業の目的

LEC 会計大学院が掲げるシミュレーション・アプローチを具体化する上で重要な役割を果たすのが表計算アプリケーション“Microsoft Office Excel”である。本科目では、シミュレーション・アプローチの土台を形成すべく、実習を通じて Excel の基本操作を習得し、関数を中心としたワークシートの作り込みを行う。あわせて、修士論文の作成等を念頭に、研究資料の入手方法や、効率的な論文作成のためのワープロソフトの使用法を学習する。

授業の到達目標

シミュレーターの作成等に必要 Excel の操作法を中心に、IT リテラシーの基本的な素養を身につけ、表計算アプリケーションを用いて簡易的なシステムを構築できる程度のスキルを修得することを本科目の到達目標とする。

履修条件

特になし

授業計画

回数	授 業 内 容	日 程
1	<ガイダンス並びに Excel の基本> 初めて Excel を使用することを想定し、ワークシートの基本やセルを参照する計算など、Excel の基礎的な要素を学習する。その中で、相対参照と絶対参照について学習する。あわせて、関数の基本について触れる。	10月7日(日) ⑥18:30-20:00
2	<条件判断を行う関数> 設定された論理式(条件)の正否を判断する IF 関数について、基本的な用法を学ぶ。同時に、複数の関数を組み合わせるネストや、IF 関数を補う論理関数について学習する。	10月14日(日) ⑥18:30-20:00
3	<検索を行う関数> 様々な用途に活用できる基本的な関数として、表の中から目的の値を取り出すことができる VLOOKUP 関数、HLOOKUP 関数について学習する。	10月21日(日) ⑥18:30-20:00
4	<VLOOKUP 関数をより実践的に活用するための関数の活用> VLOOKUP 関数と組み合わせることにより、ワークシートの実用性を高める MATCH 関数について学習する。あわせて、INDEX 関数、CHOOSE 関数について学習し、早見表や複数の対照表からデータを取り出す方法について学習する。	11月4日(日) ⑥18:30-20:00
5	<修士論文執筆のための Word の活用> Word には、論文等の作成を念頭に、目次や脚注、引用文献、図表等を管理する機能が備わっている。これらの機能を活用し、より効率的に修士論文を作成する方法を学習する。	11月11日(日) ⑥18:30-20:00
6	<インターフェースを意識したワークシートの作り込み> 第三者がワークシートを使用することを想定する場合、作業の手順や入力する内容ができるだけわかりやすいようにワークシートの構成を工夫する必要がある。ここでは、データの入力規則等によるワークシートの操作性向上を目指す。	11月18日(日) ⑥18:30-20:00
7	<日付と時刻> Excel における日付と時刻の扱いについて、シリアル値の概念を中心に学習する。その中で、日付と時刻を操作する関数や、セルの書式設定について学ぶ。	11月25日(日) ⑥18:30-20:00
8	<IT ツールの活用と著作権問題> 社会人学生が効率的に研究を進めるための携帯情報端末やクラウド等の活用法について学ぶ。同時に、高度情報社会において生じる著作権の問題を考える。	12月2日(日) ⑥18:30-20:00
9	<データベース機能> Excel のワークシート上で「フィールド」と「レコード」という概念に基づいて構成されるデータベースについて、フォームによる入力やフィルタによるデータの抽出、さらに、データベース関数を用いてデータを取り出す方法について学ぶ。	12月9日(日) ⑥18:30-20:00

10	<p><ピボットテーブルとピボットグラフ> ワークシートに入力されたデータについて項目別に集計や分析を行うことができるピボットテーブルおよびピボットグラフについて、集計元となるデータの作成法や、様々な用途を想定したデータの集計・分析の方法を学習する。</p>	12月16日(日) ⑥18:30-20:00
11	<p><Excelによるデータ分析> 商品や顧客の重要度を把握するためのABC分析とパレート図の作成、商品の位置づけを確認するPPM分析を通じて、グラフの作成・加工の手法を学ぶ。</p>	12月23日(日) ⑥18:30-20:00
12	<p><職業会計人に求められる統計手法> 統計処理を行うための高価なアプリケーションが多数存在するが、Excelでも高度な分析を行うことが可能である。ここでは、会計・監査の現場での活用を念頭に、Excelを用いた基本的な統計手法について学ぶ。</p>	1月13日(日) ⑥18:30-20:00
13	<p><システム的设计思想> 作成者ではない人が操作することを想定したシステムをExcelで構築する際、ワークシートの配置やユーザーインターフェース(操作画面)の設計をどのように行う必要があるか、実例をもとに検討する。</p>	1月20日(日) ⑥18:30-20:00
14	<p><VBAの基本(1)> Excelには操作を自動で実行するためのプログラミング言語としてVisual Basic for Applicationsが搭載されている。ここでは、一連の動作を記録することでマクロ化する方法とVBAコードの基本、VBAエディタを用いたマクロの編集について学習する。</p>	1月27日(日) ⑥18:30-20:00
15	<p><VBAの基本(2)> あらかじめ用意された関数ではまかなえない処理を行う方法として、VBAで処理の内容を記述することによりワークシート上で一般の関数と同様に扱うことの出来る関数を作成するユーザー定義関数について学習する。</p>	2月10日(日) ⑥18:30-20:00
試験	試験は実施しない。授業で扱った内容に関連して出題する課題と出席状況により成績評価を行う。	

使用教科書/評価方法等

教科書	特に指定しない。
参考書	適宜、授業時間内に示す。
評価方法	課題 50%、出席 50%
その他	